

愛知県職員 2年目現場体験研修を終えて

この事業は、愛知県が2007年から実施しているもので、2年目の県職員のみなさんがNPOでの現場体験を実施するものです。事業の開始当時から、当センターも受け入れに協力しており、今年は3人の研修生の受け入れを行いました。

研修生のみなさんにはあいち・子どもNPOセンターの仕事だけではなく、当センターに関係する団体を訪問してお手伝いをしてもらい、多様な子ども・子育て支援の現場を体験できるようにしています。普段の仕事では体験することのないことばかりで、新鮮な体験となっていると思います。彼らのこの経験が、NPOに対する正しい理解や今後のNPOと行政のよりよい協働へとつながることを期待しています。

以下、研修生に感想を書いていたいただきました。



今回の研修では子育て支援事業と、子どもが主体となって企画するイベントに参加させていただきました。

NPOの活動について、参加前は貧困等の問題を抱えた方への支援というイメージが強くありましたが、実際は対象に制限がなく、社会のニーズに応える活動であることを知ることができました。また、この社会のニーズに対応するきめ細やかな活動は、民間で行うには利益が見込めず、行政で行うには人材が足りない分野であるという印象を受けました。

今回は子育て支援を主とした団体での研修でしたが、被災地支援やまちづくりなど多種多様な活動があり、多くの方が日常の様々な場面でNPOの活動に支えられていることを再認識することが出来ました。

今後は行政職員としてNPOとの協働により、少しでも県民の皆様のお役に立つことが出来たらと思います。

とても貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

(愛知県立津島北高等学校 橋本 恭枝)

愛知県には多くのNPOがあり、それぞれが理念や目的をもって活動をしていることがわかった。

私が研修した団体では、地域の親子からとても信頼され、参加している子どもは皆楽しそうだった。

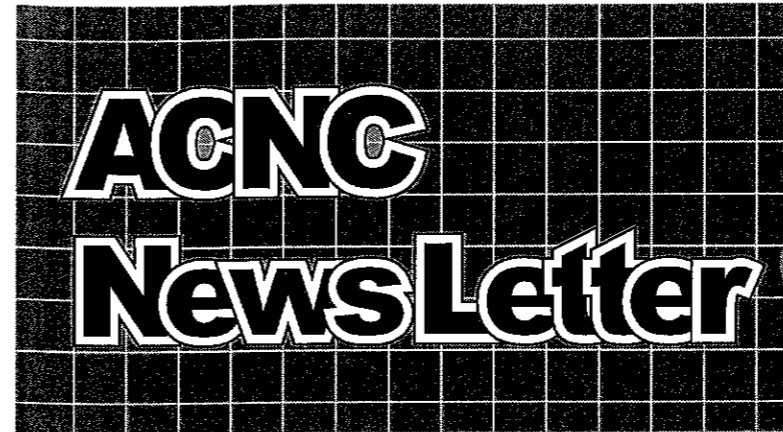
児童相談所で会う親子はあまりこれらの子育て支援サービスを使っているという話を聞かない。情報として手に入らないのか、参加する意欲や時間がないのか不明であるが、支援が必要な家庭こそ、こういったサービスを活用していくことが必要であると思った。

また、今後時間を見つけて、ボランティアなどに参加したいと思った。(尾張福祉相談センター 中道 萌子)

今回、研修をさせていただき、親子ふれあい広場や放課後児童クラブの活動やイベント、ワークショップ等に参加する中で、子育て中の母親や子どもと関わりをもつことが出来、大変貴重な経験をさせていただきました。

また、NPO法人で活動されている方々が熱意をもって事業を展開されているお話やご様子を見る中で、私自身、熱意をもって仕事をし、人と関わりをもつことを大切にしたいと強く思いました。

ご対応いただきまして、誠にありがとうございました。(一宮児童相談センター 林 永梨)



発行
特定非営利活動法人あいち・子どもNPOセンター
〒460-0002 名古屋市中区丸の内1丁目14-12
グランビル2B
TEL&FAX (052)232-3655 e-mail aichi-kodomo@mountain.ocn.ne.jp
HP http://aichi-kodomo.com

第31回学習会
「スクールロイヤーってなんじゃらほい！」を開催しました

日時:平成30年9月2日(日)13:30~15:30
場所:ウィルあいち 第6会議室
講師:高橋 直紹 弁護士



スクールロイヤーってなんでしょう??

学校現場で発生する様々な問題に対して、裁判になってから関わるのではなく、むしろトラブルが予想されそうな段階から学校の相談相手としての立場で、子どもの最善の利益の観点から、教育や福祉、子どもの権利などの視点を取り入れながら継続的に助言する弁護士。(Wikipediaより)
ポイントは、トラブルが予想されそうな段階から関わる学校の相談相手の立場で関わる 子どもの最善の利益の観点から関わるということでしょう。

◎これまでの学校現場に関わる弁護士は・・・

1. 相手方代理人 子ども(保護者)の代理人
・被害等を訴える子どもや保護者の代理人として学校と交渉する。
・正に被害回復のために動く。訴訟だけでなく交渉にも出てくる。
・子どもと保護者との意向が違う場合がかなりある。
2. 顧問弁護士 学校や(県や市町村)の代理人
・学校の代弁者。学校の意向が子どもにとって最善の利益に沿うかどうかはともかく、学校の利益のために動く。
・通常は訴訟になってから(特に公立の場合)
3. 子どもオンブズマン 中立公正な第三者機関
・とよた子どもの権利擁護委員会 可児市のいじめ防止専門委員会など
・子どもの権利の救済機関 子ども(保護者)の訴えにより、或いは独自に活動する。調査、調整、助言、支援、是正勧告を行う。
4. いじめの第三者委員として(いじめの対策推進法に基づく)というような活動が主なものでした。

◎スクールロイヤーシステムを導入している自治体

2007年~ 東京都港区
2013年~ 大阪府、三重県、岐阜県、明石市でも独自の取り組みが始まっている。

◎スクールロイヤーのイメージの多様性

1. 中央教育審議会(中教審答申「チーム学校のあり方」2015年)
・対応が困難な保護者の対応 「チーム学校」の構成員として対応が困難な保護者の対応を担い、教員の負担を軽減する。「教育対象暴力」(モンスター・ペアレント)が意識されている。
2. 文部科学省(平成30年度予算概算請求 2016年)
・目的:いじめの防止等
・法的側面からのいじめ予防教育を行う。いじめなどの諸課題の効果的な解決に資する。
3. 日本弁護士連合会(「スクールロイヤーの整備を求める意見書」2018年)
・目的:子どもの最善の利益の実現
・学校側の代理人にはならない。裁判からではなく、トラブルが予想されそうな段階から関わる。
それぞれの立場での考え方が表れているようです。

◎スクールロイヤー制度が長期的に意義あるものになるためのポイント

1. 法的なアドバイス
・学校の合理的裁量とその限界の見極めの重要性。危機管理。法的手続き。適正手続の遵守。
2. 紛争解決・紛争調整を目指す
・相談事例に対する客観的なアセスメントの必要性。学校教育の安定化を図る。スクールソーシャルワークの視点
3. 相談者、教員をエンパワーメントする意識、不安の取り除き。

◎子どもオンブズマンの方が子どもの立場に立った活動が期待できる。

子どもの権利が重要になるという姿勢が大切になってきます。子どもの利益が守られる制度になっていくことが求められます。(文責 岩根)

第32回学習会 学童保育の現状とこれから

日時:2019年3月21日(木・祝)
10:00~12:00

講師:賀屋 哲男 さん

会場:労働会館本館
アスクネットサテライトオフィス
名古屋市熱田区沢下町9-3

氏名・参加人数・連絡先を明記の上、メール、FAX、電話のいずれかでお申込みください。

詳しくは、同封チラシをご覧ください。

平成30年若者・外国人サテライト塾事業

昨年度の文部科学省の新規事業「若者・外国人未来応援事業」を引き継いで、今年度は「若者・外国人サテライト塾事業」を開設しています。昨年度は文部科学省単独の事業でしたが、県教育委員会からも委託されました。その結果、実施回数を増やすことができ、受講生のニーズに応えることができています。

昨年同様に、中学校卒業後進路未定、高校中退、不登校、引きこもり、外国人青少年等の学習支援を希望する青少年を対象に、主に高等学校卒業程度認定試験(毎年8月、11月)に向けての学習サポートをしています。(平成31年3月まで)

サポートしてくれている大学生ボランティアの皆さんに感想を書いていただきましたので、紹介します。

私は、水曜日の学習会のリーダーを務めています。学習会の後、サポーターとよく話し合っているのは、教えることで自分が新たな学びを得た、学ぶ必要性に気付かされた、という言葉です。学習者よりも年下のことも多く、教職経験がある訳でもないサポーターで運営するわけなので、完璧でわかりやすいサポートができるとは思えません。

サポーターは教える存在でもありますが、共に学び合う存在であると感じます。毎週の学習支援では、難問とサポーターも一緒に格闘して学習者と一緒に正解を喜んだり、学習者の方から様々な人生経験を伺ったりする場面がしばしばあります。

こうした場面に会ったとき、人は共に学び合い、育っていくのだと強く感じます。今後も一方的に教えるのではなく、共に学び合うことを意識した場づくりに努めていきたいと考えています。

大学2年生 F

私は、この事業に参加させていただく前から、高校卒業程度認定試験の存在は知っていましたが、実際にどんな方が受けられるのかまでは知りませんでした。しかし、事業に参加し関わらせていただく中で、様々な事情を抱えている方の存在を知り、そして、その方々の自分の将来に向けての努力を目の当たりにしました。

この事業は、そのような方々を支援できる素晴らしいものでもあり、私にとっても貴重な経験になりました。

大学4年生 Y

私はよく自分よりも年齢が高い方を教えさせて頂くことが多いのですが、どの方も学ぼうとする心意気が非常に強く、毎回教えさせて頂く度にこちらが元気をもらっています。

人は何歳になっても「学びたい」という意識を高く持っていれば、いつだって知識を身につけ、成長することが出来るのだと思うと、自分のこれからの人生が少し楽しみになってくる気がします。

未来塾に来ているみなさんのように一生懸命勉強に取り組める大人に私もなりたいです。

大学2年生 K

未来塾は、とても素晴らしいボランティアだと思っています。幅広い年齢層の参加者たちのニーズに合った支援ができるからです。数学を希望するある参加者の方から、「数学の勉強は一人ではできない」という話を伺いました。このように勉強はしたいけれども、一人では難しいという人にとっては、未来塾は非常に重宝される場所であると思います。この学習支援というボランティアが全国的に拡大してほしいです。

大学4年生 T

最初のころは年齢が20歳以上離れている方に勉強を教えるということに不安を感じていました。しかし、「教え方がうまい！」などと温かく声をかけていただいて一緒に勉強をすることを今では楽しんでます。

毎回の学習会の間の期間にもご自身で予習復習をしっかりと取り組まれていて勉強への熱心な気持ちを感じます。勉強をするのは学生だけではないということを実感するとともに、多くの人にこのような学び直しの場を知ってほしいと思うようになりました。

大学1年生 O

このような形で学習支援に携わるのは初めてで、不安もありながら活動しています。自分の理解していることを噛み砕いて、理解してもらるように説明する難しさを痛感しました。中々理解してもらえない苦しみもありましたが、「わかりました！」と言われてみると、こちらまで嬉しくなりました。また、普段の生活では関われないような方々と関われるという点でも、とてもいい経験だと思います。今後もよりよい学習支援を提供できるようにしていきたいです。

大学1年生 K

私は自分でも何か役に立てるのなら、と思いこの事業に参加させて頂きました。ですが、実際にやってみると、自分の知識を言語化し、教科書の内容を相手にわかりやすく伝え理解してもらおうのはとても難しく、むしろ私にとっていい経験になっています。

まだまだ未熟ですが、学業は自ら学びたいと思いがやることが、何より知識を自分のものにする為に大切なことだと思うので、少しでも楽しく一緒に学んでいけるよう頑張りたいと思います。

大学2年生 T

学習支援のボランティア活動に関わり、貴重な体験をさせていただくことができました。

実際に活動した機会は少なく、またその時間の中でも、私がしたことは限られているけれども、少しでも誰かの、何かの、力になることができていたのなら、よかったですと思います。

立場としては、「学習を支援する」側ですが、このような場に関わらせていただくことで、私自身にとって意味のある学びを得ることができたと感じています。

大学2年生 F

勉強を教えるというよりは、「一緒に勉強する」という意識で参加しています。一緒に教科書を読んだり問題を解いたりする中で、高校の時にはわからなかった、教科ごとの繋がりやその教科の実用性が段々と見えてきました。高校の時、勉強を受験の道具として見ていた私より、今の方がよほど「勉強している」と言えるでしょう。勉強は自分の内側を豊かにしてくれるものだとは今は捉えています。このことは、むしろ参加者の皆さんが私に教えてくれたことだと感じています。

大学2年生 M

私は、分数ができない人や、話すことが苦手な人と言うのは、伝説上だけに存在しているのだと思っていました。

しかし、このボランティアに参加させていただいて、このような人たちに会うことができ、私の世界を広げることができました。

まだ、参加者に対して完璧と言えるような対応はできていませんが、参加者の方が満足してくれるような接し方を考えながら、これからも続けていきたいです。

大学4年生 K

私は昨年度からボランティアに参加させていただいておりますが、そのなかで最も学びとなったのは、答えを知っていることと理解していることは異なるということです。

学生として勉学に励んでいるときは、ひたすら与えられた情報を暗記し機械的に回答できることが理解することであると思っていました。しかしサポーターとして勉強を教える立場に転じ、支援対象の方から「なぜ?」という問いを投げかけられたときに、私は学びの本質とは、ものごとの根源に迫ることであると知り、またそれこそが理解であるということも知ることができました。

この学びを今後社会に出るうえでも大切にしていきたいと考えております。

大学4年生 K

高卒認定試験を受けてみませんか

受講料・教材費 無料

高卒認定試験 合格に向けた 学習支援

毎週 水曜日 17:30~19:30

毎週 土曜日 13:30~17:30

高卒認定試験には以下の 金曜日 も実施
7/13・20・27、10/12・19・26、11/2・9
14:00~17:00

○ 場所 認知症学習推進センター (県東大学庁舎2階)
○ アクセス 地下鉄 名城線「前夜所」駅2番出口から東へ徒歩約3分
名鉄 東山線「東大平」駅4番出口から徒歩約3分

○ 場所 認知症学習推進センター (県東大学庁舎2階)
○ アクセス 地下鉄 名城線「前夜所」駅2番出口から東へ徒歩約3分
名鉄 東山線「東大平」駅4番出口から徒歩約3分

